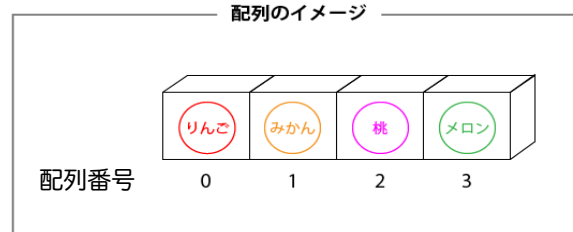


1 配列について知ろう。

配列とは・・・同じ種類のデータを複数含んだ変数のこと

例) 果物が 4 個入った配列 a がある場合、3 個目に入っている果物は、
a[2] のようにして参照する。この場合の要素数は 4。

**超重要**

配列番号を添字といいます！問題の指示は主に 2 つです。
必ず読んで確認してください

- ①配列の添字は 0 から始まるものとする
- ②配列の添字は 1 から始まるものとする

練習 1 配列を書いていこう。

```
a=["信長","秀吉","家康"]
print(a[2])
```

配列の書き方について

- ・ a[] の中に書いていきます。
- ・ a は配列名なので何でもかまいません。

練習 2 練習 1 を順番に表示されるようにしよう

```
a=["信長","秀吉","家康"]

for i in range(0,3):
    print(a[i])
```

- 終わるのは添字が 0 から始まり 2 まで
- 順番にトレースすると

| 繰り返し回数 | i の値 | 出てくる配列 |
|--------|------|--------|
| 0 回目 | | |
| 1 回目 | | |
| 2 回目 | | |

練習 3 ten の中の 60 以上の数字があるか探すプログラム

```
ten=[50,80,90,100]

for i in range(0,4):
    if ten[i]>=60:
        print(i,"番目にあるよ")
```

このプログラムについて

- ・ 配列の添字が 0 から始まる
- ・ 終わるのは 3 なので
0 から 3 まで繰り返す

●終わった人はプログラミングのエッセンス p.9 基礎練習 1～基礎練習 3、p.11 基礎練習 1

●問題集→p.82～p.84

練習 4 配列の中の点数(数字)を合計するプログラムを作ろう

```
ten=[50,80,90,100]
gokei=0

for i in range(0,4):
    gokei=gokei+ten[i]
print(gokei)
```

このプログラムについて

- ・配列の中の文字は” ”が必要だが数字はいらない
- ・(0,4) は 0 から 4 未満の数字まで繰り返すと
いう意味→0 から 3 回まで
- ・今回の配列は 0 が 10 でスタート

●ちなみに gokei の値を追っていく(トレース)すると

| 繰り返し回数 | gokei+ | ten[i] |
|--------|--------|--------|
| 0 回目 | | |
| 1 回目 | | |
| 2 回目 | | |
| 3 回目 | | |

| 最終 gokei 値 |
|------------|
| |
| |
| |
| |

重要 Python と DNCL の比較

Python

```
kotoba=["あ","い","う"]

for i in range(0,3)
    print(kotoba[i])
```

DNCL

- (1) kotoba= 【“あ”, ”い”, ”う”】
- (2) i を 0 から 2 まで 1 ずつ増やしながら繰り返す :
- (3) └ 表示する (kotoba[i])

●上手く動いた人はプログラミングのエッセンス p.12~p.15

(合計の求め方、個数・日数の数え方)

二次元配列について

●一次元配列 tokuten=[3, 5, 6]

●二次元配列 tokuten=[2,0]や tokuten=[2,3]のように表記

行を見る (i) 列を見る(j)

Tokuten

| | | | |
|-----|-----|----|----|
| | i → | | |
| j ↓ | 1 | 10 | 16 |
| | 14 | 5 | 12 |
| | 13 | 8 | 13 |

▶ Tokuten=[2,0] は 2 行目、0 列目を参照 (配列は 0 から始まる)